

H21-P3 災害に強く円滑に通行できる道路整備

京都市の課題

- ・本市の山間部では、市街地部に比べ、幹線道路の整備が遅れている。
- ・災害時でも円滑な救助や輸送ができる道路ネットワークの形成が必要である。

対 策

山間部の幹線道路における「すれ違いが困難な区間」及び「見通しが悪い区間」を解消する道路整備を進めます。

成果目標

現況(平成21年度当初) → 中間目標(平成23年度末) → 目標(平成25年度末)

- ① 山間部集落から中心地域(区役所)までのアクセス時間短縮
一分(現況) → 5分(中間目標) → 10分(目標)
- ② 国道・府道の山間部道路で災害により通行規制を行った件数の減少
13件(現況) → 12件(中間目標) → 11件(目標)

事業が完成すると？

- ・山間部と市街地部の連携の強化
- ・安全で快適な通行が可能
- ・災害時の緊急輸送路の確保
等の効果が期待されます。

更にこんな効果が

- ・CO₂、NO_x排出量の削減
- ・防災対策が必要な箇所への解消

整備イメージ等

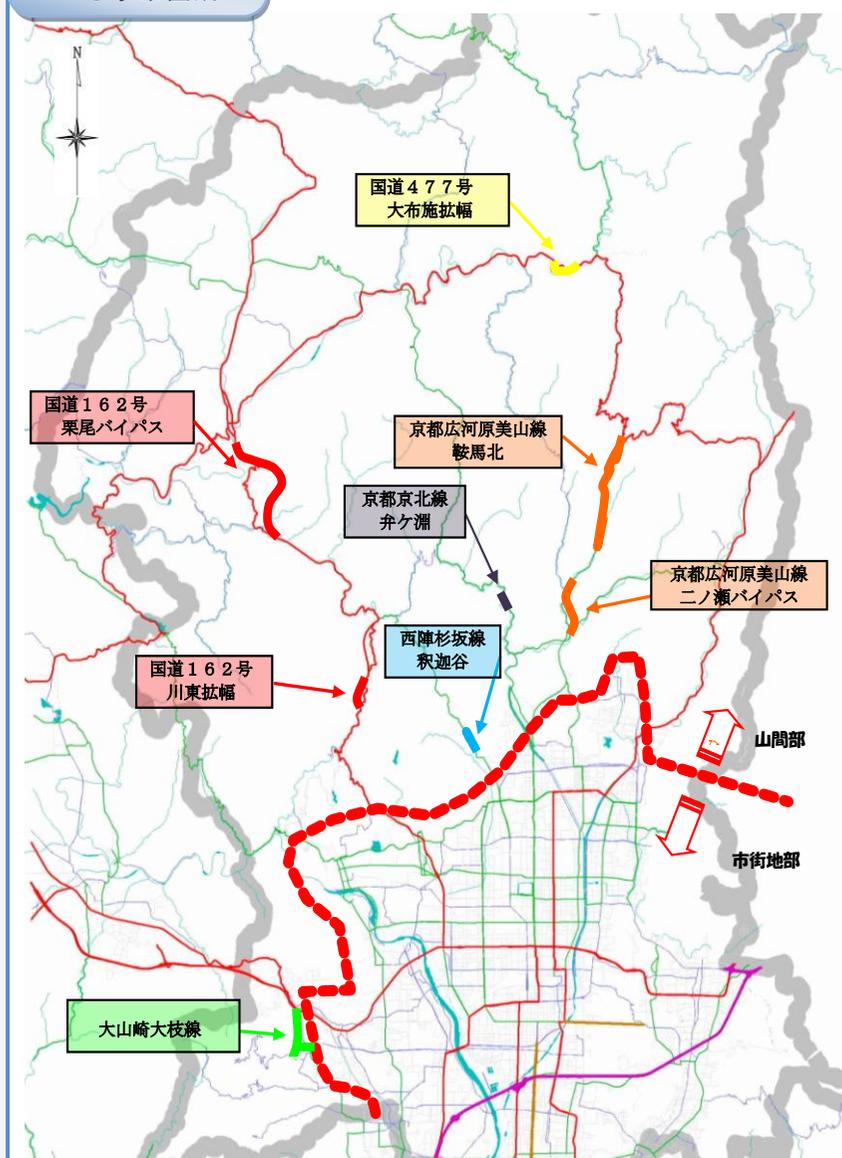
道幅が狭く離合が困難



バイパス整備等により快適な通行が可能



主な事業箇所



※ 財政状況、事業の進捗状況等により今後適宜見直していくこととしています。